

# 研修だより NO.9

世羅町立せらひがし小学校

令和8年2月20日

## 《研究主題》

児童自ら学びを深める算数科授業の創造  
～協働的な学びを軸とした個別最適な学びの取組を通して～

## 2025 年度筑波大学附属小学校 学習公開・初等教育研修会

2月14日（土）・2月15日（日）、筑波大学附属小学校にて学習公開・研修会がありました。とくに算数科における授業について参観しました。筑波大学附属小学校レポート第1弾として、本校の講師でもある田中英海先生の授業について紹介します。明日の授業からすぐに生かせるものもあります。3学期のまとめの時期ですが、日々の積み上げを意識して、次の学年でも児童が自ら学びを深められる授業にしていきたいと思います。

### 5年算数 「比べ方を考えよう(割合)ー日常生活の割合の探究・活用ー」

授業者:田中 英海 先生

#### 1. ねらい

基準量となる量（もとにする量）が変化することに着目し、複数の割合がある場合の代金の求め方を図や式を用いて説明することができる。

授業が始まる前には・・・

T：学校に来られている先生が大体 2600 人。この講堂に 260 人くらいいます。割合は？

C：10%。

T：例えば、今日東京都から来られている先生が 315 人のはず。この講堂に何人くらいいそう？  
となりの人と話してみよう。

C：31 人くらい？学校にいるのが 2600 人でここにいるのは 260 人だから割合は 0.1。  
置き換えて考えると、 $315 \times 0.1 = 31.5$  だから 31 人くらい。

T：こうやって日常でも予想として使える。確かめてみよう。

C：（講堂にいる先生の人数を数える）26 人。

T：全然違うと思った人？ なかなかいいんじゃないと思った人？  
こんな風に割合を使うと予想ができるんだ。

同じように他の都道府県の参加者数から講堂にいる人数を予想する活動、講堂にいる人数から全体の人数を予想する活動をされていました。計算をすると、大体予想が合っていました。算数の学びと日常生活との結びつけを自然にかつ意図的にされていました。ウォーミングアップとして、統計的な視点を児童に教えている場面でした。

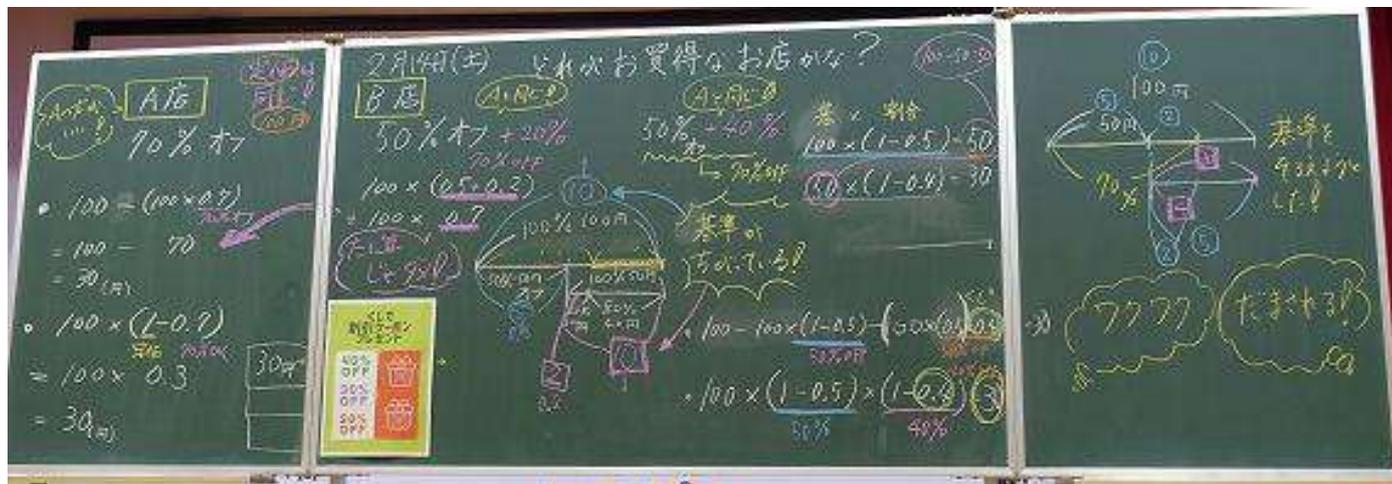
## 2. 本時の板書・児童が自ら探究に向かうための手立て

問題提示：同じ商品がA店、B店で売られています。

A店は全品70%引き

B店は全品50%引き & くじで「追加で〇%引き」(20%、30%、40%)

どちらのお店が安く買えるでしょう？



◎田中先生は、どのような意図を持って発問・声掛けをされたのか考えてみましょう。

①

- AとBどちらだと思う？  
(挙手による意思表示)
- 答え(続き)を全員で言います。せーの。
- みんな、指をさして教えて。
- 違う式が思い浮かんだ人いる？

②

- Aという意見とBという意見があるけれどどっちだろう。
- この式は何を考えているんだろう。
- 今の発表、もう一度確かめてみよう。
- Aさんはこの後、どんな説明をしよう？

③

- ここまで図をかいてみよう。他にもかいている人がいたよ。
  - チョークを持ち替えて色を変えて説明しようとしているね。
- ※図が大切。構造が見える。

④

- (考える間をとってから) どういうこと？
- 伝わった？
- (児童に自由に発言させた後で) 何か言いたそうだね。
- なんで~しようと思ったの？

⑤

- 基準が違うから~したんだね。
  - これで基準が違っていることが分かる？
  - ~して基準をそろえようとしたんだね。
- ※キーワードを何度も取り上げる

⑥

- こういう場面、よく見るよね。
- 店の人はなんでこんなことをしているんだろう。
- 「どれだけ売れないの」「ワクワクする」「思い込みを利用する」など、児童の率直な思いを大切にする。